

獲得される2種類の資源の量と その喪失の脅威が嫉妬の強さに 及ぼす影響¹⁾

塩田 伊都子²⁾

[キーワード：①嫉妬；②資源；③資源喪失の脅威]

目 的

恋愛関係のような直接的な人間関係に基づく場合においても、成績のような社会的比較に基づく場合においても、嫉妬が生じるためには恋人や成績といった対象が自己にとり重要であることが必要である。例えば Buunk (1982) が行った調査ではパートナーの重要度は嫉妬の強さとほぼ正の相関があり、また Tesser & Collins の実験 (1988) では被験者が過去に行った活動の関連性として“それをうまく遂行することはどの程度重要か”、“うまく遂行することは、個人的にはどの程度重要か”、“自己はこの次元にどの程度関係しているか”の3項目を合計したものを独立変数、嫉妬の強度を従属変数とした分散分析を行ったところ、他者が自己よりも優れた遂行を行った場合、関連性が低い活動よりも関連性が高い活動において強い嫉妬が喚起された。

そしてある対象が自己にとり重要であるとは、その対象が自己に対して愛情や金銭などの何らかの資源を供給しているか供給しようということであるとも考えられる。この考えに基づけば供給しているあるいは供給しようする資源の量が増えるほど、その対象の重要度も増し、さらにその対象が重要であるほど、すなわち獲得している資源の量が多いほど、資源の喪失により失うものも大きいので、喪失に対する脅威も大きいと思われる。そして嫉妬とは「ライバルによる、その関係から得られる自尊心や供給物 (provision) の喪失や低減あるいはその脅威から生じる」(White & Mullen, 1989) とされることから、対象が重要であるほど獲得している資源の量が多く、その結果その資源の喪失に対する脅威が大きいため嫉妬も強いと予測される。

ところである対象から供給される資源はその機能により2種類に分けることができると考えられている (e.g., Shaver & Buhrmester, 1983)。すなわち仕事や研究といった外的な課題や目標達成のための道具となる手段的、道具的な機能を持つもの (以下、手段資源) と自尊心の高揚や満足などを受け手に直接的にもたらす目的的、自己完結的 (以下、目的資源) な機能を持つものである (ただしこれらの機能は必ずしも資源に固有なものではなく、状況等に応じて変化する事もあると思われる)。そしてこれまでの嫉妬研究では、対象から得られる資源の機能と嫉妬の関係については、実証的な研究はほとんど行われていない。しかしこれら2種類の資源のどちらが嫉妬の強度により大きな影響を及ぼすかを調べることは、嫉妬の発生条件を明らかにする上で価値があると考えられる。

そこで以下では、重要な対象ほどその対象から獲得している資源が大きく、そのような対象ほど、資源の喪失や低減に対する脅威も大きく、さらに資源はその機能により2種類に分けられると考えられることから、対象

獲得される2種類の資源の量とその喪失の脅威が嫉妬の強さに及ぼす影響（塩田伊都子）

から獲得している2種類の資源の量が、その低減あるいは喪失の脅威に及ぼす影響、及びそれらの脅威が嫉妬の強さに及ぼす影響を検討する。

方 法

被験者大学生 253名（男性107名・女性146名）

平均年齢 19.37歳（ $SD=1.53$ ）

施行時期 1995年（平成7年）7月及び1997年（平成9年）11月³⁾

質問紙 表紙と3つの部分（その関係や対象から獲得している資源の量、嫉妬喚起状況における脅威と嫉妬の大きさ、フェイスシート）からなる質問紙を被験者に呈示し、前2つの部分については“全くあてはまらない”から“非常にあてはまる”までの5段階のリカート法で回答させた（付録）。

第1の部分では対象から獲得している資源の量を尋ねたが、対象は嫉妬喚起状況は筆者の以前行った調査（塩田, 1996）を参考とし、親友、母親、父親、恋人、サークル、成績の6種類とした。また項目は永田（1961）、飛田（1991）などを参考とし、比較的手段的及び目的的な機能を固有に持つと考えられる資源を選んだ。また第2の部分では、嫉妬喚起状況における嫉妬及び手段的、目的的資源への脅威の大きさを測定したが、状況は社会的比較状況、恋愛状況、友人状況、親子状況の4種類とし、各2状況ずつ計8状況とした。そしてフェイスシートでは、サークル加入の有無、交際相手の有無、性別、年齢を尋ねた。

結 果

変数の操作

まず恋人の有無の影響を調べたところ、獲得している資源の量（手段資源：4.07 vs 3.33, $t(246)=4.93$ （恋人有り vs 恋人無し, 以下同じ）、目的資源：3.81 vs 3.07, $t(244)=5.18$ ）恋人状況における資源の喪失の脅威（手段資源喪失の脅威：1.86 vs 2.46, $t(246)=3.96$ 、目的資源喪失の脅威：1.68 vs 2.43, $t(246)=4.70$ ）、嫉妬の強度（2.84 vs 3.35, $t(246)=2.93$ ）と全て危険率1%未満で有意な差異がみられたので、恋愛関係の項目では恋人の有無で被験者を分けて分析した。なお以下では、恋人（有）（男性19名・女性38名）、恋人（無）（男性85名・女性107名）とした。またサークルに関する項目でもサークル加入の有無により、獲得している目的資源の量に関して1%未満で有意な差がみられたので（2.90 vs 2.00, $t(247)=5.06$, $p<.01$ （加入 vs 非加入））、サークル加入者208名（男性89名・女性119名）のみを分析対象とした。そしてきょうだいのいない被験者がきょうだいのいる状況を想像することは困難だろうとの予測に基づき家族関係の状況には（兄弟や姉妹のいらっしゃる方のみ御回答下さい）の一文を付けたため家族条件については被験者は231名（男性97名・女性134名）となった。

資源の量が脅威に及ぼす影響

資源の量が脅威に及ぼす影響を調べるために、資源の量を測定する12項目（親友、母親、父親、恋人、サークル、成績、X 手段、目的資源）を説明変数、各項目の対象と対応する6種類の状況で喚起される手段、目的の各資源喪失の脅威の強さを目的変数（例、恋人からの目的資源→恋人

獲得される2種類の資源の量とその喪失の脅威が嫉妬の強さに及ぼす影響（塩田伊都子）

表1 獲得している手段資源及び目的資源が脅威の強度に及ぼす影響（回帰係数）

	友人	母親	父親	恋人(有)	恋人(無)	成績	サークル
(男性)							
手段資源	-0.01	0.10	0.17	0.22	0.03	0.37**	0.05
目的資源	-0.08	-0.02	-0.02	-0.27	0.22	0.04	-0.06
(女性)							
手段資源	-0.12	-0.06	-0.01	-0.43	-0.27**	0.38**	0.05
目的資源	-0.11	-0.08	0.03	-0.19	-0.23	0.02	-0.25*

* $p < .05$ ** $p < .01$

状況での目的資源への脅威)とする単回帰分析を各性別に行った(表1)。その結果恋愛(無)条件の女性の手段資源,男女の成績条件の手段資源,サークル条件の女性の目的資源のみに有意な効果が見られた。しかし関係の方向は一様でなく,成績条件の資源手段では回帰係数がプラスで,成績が就職に影響を及ぼすと思っている被験者ほど,成績が他者と比較して悪い場合に,就職への影響を心配するが,恋愛(無)条件の手段資源とサークル条件の目的手段では回帰係数がマイナスであり,困ったことが起きたとき恋人が頼りになると思っている女性の被験者ほど,嫉妬状況でも恋人への信頼が揺るがず,またサークル活動に自信のある女性の被験者ほど,他者の方がうまくてもプライドが傷つかないという結果となった。従って獲得している資源の量はその資源の喪失の脅威に少なくとも直接的あるいは単一的な影響を及ぼさないといえる。

なおこの結果を受けて,資源の量が脅威ではなく嫉妬の強さに直接影響を与える可能性も考慮して,2種類の資源の量を説明変数,対応する嫉妬状況での嫉妬の強さを目的変数とする重回帰分析を行ったところ,母親,父親条件の手段資源で男女共に(男性:偏回帰係数 0.34/0.38, $R^2 = 0.11/0.12$, 共に $p < .01$, 女性:偏回帰係数 0.31/0.26, $R^2 = 0.07/$

0.05, $p < .01 / p < .05$ (母親/父親)), また恋人(有)条件の手段資源で男性(偏回帰係数 0.74, $R^2 = 0.33$, $p < .05$)に有意な効果があった。すなわち男女を問わず困ったときに母親や父親を頼りになると思っている被験者ほど、あるいは困ったときに恋人が頼りになると思っている、恋人のいる男性の被験者ほどそれぞれの嫉妬状況で嫉妬が強かったが、それ以外では有意な結果が得られなかったことから、獲得している資源の量と嫉妬の強さの間にはあまり直接的な結びつきは無いといえるのではないだろうか。

脅威の強さが嫉妬に及ぼす影響

次いで脅威の大きさが嫉妬に及ぼす影響を検討したが、まず被験者に呈示した状況は各関係ごとに2種類なので、その2種類の状況間で脅威及び嫉妬の相関を調べたところ、全ての関係間で中～高程度の相関がみられたので(.37～.81)、各関係ごとに2種類の状況間で脅威及び嫉妬の得点を合計した。そして脅威の大きさが嫉妬の大きさに与える影響を調べるために、手段資源、目的資源喪失の脅威の各々を説明変数とした単回帰分析、及び異なった資源の喪失の脅威の相対的な影響の差異を検証するために、手段資源、目的資源喪失の両脅威を同時に説明変数とする重回帰分析をそ

表2 手段資源及び目的資源への脅威が嫉妬の強度に及ぼす影響(回帰係数)

(男性)	友人	親子	恋人(有)	恋人(無)	社会的比較
脅威(手段資源)	0.28**	0.77**	0.37	0.42**	0.39**
脅威(目的資源)	0.53**	0.69**	0.38	0.35**	0.63**
(女性)	友人	親子	恋人(有)	恋人(無)	社会的比較
脅威(手段資源)	0.54**	0.55**	0.43*	0.47**	0.37**
脅威(目的資源)	0.38**	0.66**	0.49*	0.36**	0.62**

* $p < .05$ ** $p < .01$

獲得される2種類の資源の量とその喪失の脅威が嫉妬の強さに及ぼす影響（塩田伊都子）

表3 手段資源及び目的資源への脅威が嫉妬の強度に及ぼす影響（偏回帰係数）

(男性)	友人	親子	恋人(有)	恋人(無)	社会的比較
脅威(手段資源)	0.06	0.46**	0.22	0.31*	0.06
脅威(目的資源)	0.50**	0.34*	0.21	0.19	0.61**
R^2	0.27	0.53	0.12	0.17	0.40
(女性)	友人	親子	恋人(有)	恋人(無)	社会的比較
脅威(手段資源)	0.40**	0.17*	0.30	0.35*	0.08
脅威(目的資源)	0.22**	0.55**	0.22	0.14	0.60**
R^2	0.25	0.50	0.15	0.21	0.45

* $p < .05$ ** $p < .01$

れぞれ嫉妬の強さを目的変数として男女別に行った（表2，表3）。その結果単回帰分析では，手段資源，目的資源喪失の脅威とも，ほぼ全ての脅威で嫉妬への強い有意な効果がみられたことから，資源の喪失の脅威は嫉妬の強さに大きな影響を及ぼすといえる。なお恋人（有）条件の男性のみ有意差がなかったが，被験者数が18名と少なかったことも原因の一つと考えられる。

また重回帰分析の結果，どちらの資源喪失の脅威が嫉妬により強い影響を及ぼすかについては，恋人（無）条件では手段資源喪失の脅威の影響が強いのにに対し，友人条件と社会的比較条件では目的資源喪失の脅威が大きく，さらに親子条件ではどちらも有意な効果があり，状況ごとに大きな脅威が異なった。従ってどちらの資源喪失の脅威が嫉妬の強さに相対的に大きな影響を及ぼすかについては，この結果から明らかではなく，むしろ状況により嫉妬を喚起する脅威の質は異なる可能性を示唆したと言えるのではないだろうか。

そして重回帰分析の結果興味深い性差がみられた。友人条件において，男性は目的資源喪失の脅威すなわちプライドへの脅威のみが嫉妬と結びつ

いているのに対し、女性は目的、手段の両資源の喪失が嫉妬に関係しており、プライドへの脅威だけでなく、友人に頼れなくなるかもしれないという脅威も嫉妬と結びついていた。また親子条件では男性が手段資源喪失の脅威より目的資源喪失の脅威が嫉妬と結びつき、従って親を頼れなくなるかもしれないという脅威が、プライドへの脅威よりも大きいのに対し、女性では逆に目的資源喪失の脅威すなわちプライドへの脅威の方がかなり強く嫉妬と結びついた。これらの結果は嫉妬研究にとどまらず、他者との関係における性差の存在を表すものと考えられる。

考 察

本調査ではある対象から獲得している手段、目的の2種類の資源の量がその喪失や低減の脅威に与える影響、並びにそれらの低減や喪失の脅威が嫉妬に及ぼす影響を検証した。その結果獲得している資源の量は手段資源、目的資源の両資源共、それらの喪失の脅威、嫉妬の強さのどちらにもほとんど影響を及ぼさなかったが、資源の喪失の脅威の嫉妬に及ぼす影響については、手段、目的の両資源の喪失の脅威とも嫉妬の強さに大きな影響を与え、脅威が大きいほど嫉妬が強いことが明かとなった。予測に反して獲得している資源の量が喪失の脅威に影響を及ぼさなかったが、この理由としては脅威の大きさには獲得している資源の量以外にも多くの要因が関係することが考えられる。例えばその喪失を補うような他の資源の供給源がある場合は、そのような存在が無い場合と比較して資源の喪失の脅威は抑えられることが予測されるので、まず脅威に影響を与える獲得している資源の量以外の変数を明らかにすることが必要と思われる。

また道具資源喪失と手段資源喪失の脅威の嫉妬に及ぼす影響の相対的な

獲得される2種類の資源の量とその喪失の脅威が嫉妬の強さに及ぼす影響（塩田伊都子）

大きさは状況により異なったが、これは嫉妬が単一の資源の喪失の脅威に影響されるのではなく、複数の資源喪失の影響を受けており、従って嫉妬には複数の資源が関与することを示している。そして嫉妬に常に影響を及ぼすような資源は、質問紙上で呈示した資源の数が2種類と少なかったためか、今回の調査では明らかにすることができなかったが、状況により影響を及ぼす資源が異なったことから、嫉妬と関連する資源は状況により異なり、嫉妬状況で一貫して影響を及ぼすような資源は存在しない可能性もあるといえよう。

ところで今回の調査では脅威と嫉妬とは密接な関係があることは証明されたが、脅威が嫉妬喚起のための必要条件であるか否かは未確認である。また「問題」で述べたように White & Mullen らは嫉妬とは「自尊心や供給物 (provision) の喪失や低減あるいはその脅威から生じる」としているが、Folkman & Lazarus ら (1985) は情動はその遭遇が無関係か、ポジティブか、ストレスフルなものであるかを決定する一次評価と自分に何ができるかという二次評価に基づき、さらにストレスフルであると評価された場合は脅威か挑戦か喪失かという認知の違いにより喚起される情動も異なるとしている。従ってこれらの嫉妬喚起のために資源喪失の脅威は必要条件であるのか、資源喪失と喪失の脅威という異なった認知から嫉妬という同じ情動が生じるのかという問題を解きあかすために、嫉妬が喚起されるためには状況がどのように認知される必要があるのか、すなわち嫉妬の必要条件に関する研究が今後の課題である。

脚 注

- 1) 本論文は平成7年度学習院大学人文科学研究科修士論文の一部にデータを追加し、再分析したものである。なお追加前のデータは日本社会心理学会第38回

大会で発表した。

- 2) 本論文の作成にあたり御指導いただきました、学習院大学永田良昭教授、元学習院大学教授中村陽吉教授に深く感謝いたします。
- 3) 調査の実施にあたりご協力いただきました、流通経済大学今井芳昭助教授、一橋大学安川一助教授に厚く御礼申し上げます。

引用文献

- Buunk, B. 1982 Anticipated sexual jealousy: Its relationship to self-esteem, dependency and reciprocity. *Personality and Social Psychological Bulletin*, 8, 310-316.
- Folkman, S. & Lazarus, S. R. 1985 If it changes it must be a process: Study of emotion and coping during three stages of a college examination. *Journal of Personality and Social Psychology*, 48, 150-170.
- 飛田操 1991 道具的ならびに情緒的対人機能の提供と獲得が関係への満足度に及ぼす効果—女子青年を対象として— 教育心理学研究, 39, 67-74.
- 永田良昭 1961 対人関係の次元に関する研究教育・社会心理学研究, 2, 160-173.
- Shaver, P. & Buhrmester, D. 1983 Loneliness, sex-role orientation and group life: A social needs perspective. In P. B. Paulus (Ed), *Basic group processes*. Springer-Verlag. Pp. 259-288.
- 塩田伊都子 1996 「嫉妬」とラベリングされる条件の分析 学習院大学修士論文 (未刊行)
- Tesser, A. & Collins, J. E. 1988 Emotion in social reflection and comparison situations: Intuitive, systematic, and exploratory approaches. *Journal of Personality and Social Psychology*, 66, 695-709.
- White, G. L. & Mullen, P. E. 1989 *Jealousy: Theory, research and clinical strategies*. The Guilford Press.

付録 獲得している資源の量、嫉妬状況およびその際に喚起される脅威、嫉妬の大きさを測定する質問項目

獲得している資源の量

人間関係 (恋愛関係, 友人関係, 家族関係)

手段資源: 困ったことが起こったときに、～は頼りになると思う (～には、親

獲得される2種類の資源の量とその喪失の脅威が嫉妬の強さに及ぼす影響（塩田伊都子）

友，お母さん，お父さん，恋人がそれぞれ入る）

目的資源：～は，私がどのような人間であるかを理解していると思う

社会的比較

手段資源：～は，自分の就職に影響を及ぼすと思う（～には，学校での成績，サークルでの活動がそれぞれ入る）

目的資源：～に自信がある

被験者に呈示した嫉妬喚起状況

[恋愛関係]

恋愛状況：自分のつきあっている相手が自分の親友（自分と同性）と仲良く話している

片思い状況：自分の好きな異性（つきあってはいない）が自分の親友（自分と同性）と仲良く話しをしている

[友人関係]

グループ状況：友人グループで自分だけがのけ者になる

親友状況：同性の親友に約束をすっぽかされて，後にそのとき別の友人と会っていたことを知る

[家族関係]

父親状況：兄弟や姉妹の方が自分よりも父親からかわいがられている

母親状況：兄弟や姉妹の方が自分よりも母親からかわいがられている

[社会的比較]

サークル状況：一生懸命やっているサークル活動で，同性の親友の方が自分より上手である

成績状況：自分もそれなりに一生懸命勉強したのに，ある同性の知り合いと成績に大きな差がつく

脅威の強さ

人間関係（恋愛関係，友人関係，家族関係）

手段資源：これから先，～に頼れなくなるかも知れないと心配になる

目的資源：プライドが傷ついたと感じる

社会的比較

手段資源：このことが就職に不利な影響を及ぼすかもしれないと心配になる

目的資源：プライドが傷ついたと感じる

嫉妬の強さ

全状況とも“この状況を経験することにより嫉妬を感じる”で測定した

The effect of the amount of two kinds of resource and the threat of the loss of those resources on the amount of jealousy/envy

Itsuko Shiota

[Key words: jealousy/envy, resource, threat of the loss of resource]

This research investigated the effects that the amount of the method resource (functions as instrument) and the purpose resource (functions as self-conclusion) produces on the threat of losing those resources, and the effects that the threat of those produces on the strength of jealousy/envy.

Two hundred and fifty three undergraduates rated the amount of those resources received from their close friend, mother, father, extracurricular activity and university scores. They also rated the amount of the threat of the loss of those resources and the strength of jealousy/envy under jealousy/envy-provoking situations.

The analysis indicated that although neither resources influenced the amount of threat of those loss, both kinds of threat strongly influenced the strength of jealousy/envy. Also the relative effect of those threat were varied as the types of the situations changed.

(学習院大学人文科学研究科心理学専攻博士後期課程)